

北海道における有機質肥料資源としての 家畜排せつ物発生量等の可視化

令和7年1月 北海道農政事務所統計部

目 次

・「北海道における有機質肥料資源としての家畜排せつ物発生量等の可視化」について・・・	1
・家畜排泄物量推定のための原単位・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
・北海道の畜産環境をめぐる情勢・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
・家畜排せつ物（ふん尿）年間発生量の推定について・・・・・・・・・・・・	4
・家畜排せつ物（ふん尿）年間発生量・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
・家畜排せつ物由来窒素年間発生量の推定について・・・・・・・・・・・・	10
・家畜排せつ物由来窒素年間発生量（5畜種計）・・・・・・・・・・・・	11
・家畜排せつ物由来リン年間発生量の推定について・・・・・・・・・・・・	12
・家畜排せつ物由来リン年間発生量（5畜種計）・・・・・・・・・・・・	13

「北海道における有機質肥料資源としての家畜排せつ物発生量等の可視化」について

分析の目的

肥料資源の過度な海外依存からの脱却のため、国内肥料資源の活用を推進することが求められている中、肥料原料となり得る家畜ふん尿等の有機物資源量について、北海道計や市区町村等单位でのデータを整備したうえで地図上に可視化し、各種施策に活用することを目的とします。

分析手法

(1) 使用データ

①2020年農林業センサス結果

- ・乳用牛飼養頭数（計、2歳以上、2歳未満）、肉用牛飼養頭数、豚飼養頭数（計、子取り用めす豚、肥育中の豚）、採卵鶏飼養羽数、ブロイラー年間出荷羽数（飼養羽数に換算して使用）

②「家畜の排泄物量推定プログラム」築城幹典・原田靖生、システム農学（J、JASS）、13(1)、17-23、（1997）

- ・家畜排泄物量推定のための原単位（各畜種の種類別1頭（羽）の1日当たりの発生量）
各畜種（種類）別ふん、尿、窒素、リンの各種原単位

(2) 分析指標の推定方法

①家畜排せつ物（ふん尿）年間発生量（5畜種計）：各畜種飼養頭（羽）数×ふん・尿別発生原単位×365日 により算出

②家畜排せつ物由来窒素年間発生量（5畜種計）：各畜種飼養頭（羽）数×窒素発生原単位×365日 により算出

③家畜排せつ物由来リン年間発生量（5畜種計）：各畜種飼養頭（羽）数×リン発生原単位×365日 により算出

(3) 分析指標の可視化

- ・（2）により推計した結果について、地理情報ソフト（QGIS）により市区町村別に可視化
- ・各種年間発生量の畜種別構成比についてもグラフにより可視化

分析にあたって

今回の分析のうち、家畜排せつ物（ふん尿）年間発生量については、過去にも北海道庁等で可視化している経過があり、北海道の発生量としては、「北海道の畜産環境をめぐる情勢」令和6年5月北海道農政部生産振興局畜産振興課、「北海道家畜排せつ物利用促進計画」令和3年3月北海道により試算、公表されていますが、今回は市区町村別データの可視化を図る必要があることから2020年農林業センサス結果を使用して分析（可視化）を行っています。



家畜排泄物量推定のための原単位



今回の分析に際して参考とした、「家畜排泄物量推定のための原単位」は以下のとおり。

各試算値の算出にあたっては、「家畜排泄物量推定のための原単位」の各畜種の区分と、2020年農林業センサスの集計事項ごとに以下の区分の原単位を採用しました。

- 乳用牛（2歳以上） → 搾乳牛
- 乳用牛（2歳未満） → 育成牛
- 肉用牛（計） → 乳用種（2020年農林業センサスにおいては調査事項に年齢区分がなく区分しがたいため数値として概ね中庸な乳用種を採用）
- 豚（子取り用めす豚） → 繁殖豚
- 豚（肥育中の豚） → 肉豚
- 採卵鶏 → 成鶏（2020年農林業センサスの調査事項にひな、成鶏の区分がないため）
- ブロイラー（年間出荷羽数） → ブロイラー

※2020年農林業センサスでは飼養羽数を調査事項としていないことから、年間出荷羽数を飼養羽数に換算したうえで適用しました。

家畜排泄物量推定のための原単位

区 分		ふん尿量 (生重kg/頭(羽)/日)			窒素量 (gN/頭(羽)/日)			リン量 (gP/頭(羽)/日)		
		ふん	尿	合計	ふん	尿	合計	ふん	尿	合計
乳 牛	搾 乳 牛	45.5	13.4	58.9	152.8	152.7	305.5	42.9	1.3	44.2
	乾・未経	29.7	6.1	35.8	38.5	57.8	96.3	16.0	3.8	19.8
	育 成 牛	17.9	6.7	24.6	85.3	73.3	158.6	14.7	1.4	16.1
肉用牛	2 歳 未 満	17.8	6.5	24.3	67.8	62.0	129.8	14.3	0.7	15.0
	2 歳 以 上	20.0	6.7	26.7	62.7	83.3	146.0	15.8	0.7	16.5
	乳 用 種	18.0	7.2	25.2	64.7	76.4	141.1	13.5	0.7	14.2
豚	肉 豚	2.1	3.8	5.9	8.3	25.9	34.2	6.5	2.2	8.7
	繁 殖 豚	3.3	7.0	10.3	11.0	40.0	51.0	9.9	5.7	15.6
採卵鶏	雛	0.059		0.059	1.54		1.54	0.21		0.21
	成 鶏	0.136		0.136	3.28		3.28	0.58		0.58
ブロイラー		0.130		0.130	2.62		2.62	0.29		0.29

資料：「家畜の排泄物量推定プログラム」築城幹典・原田靖生、システム農学（J、JASS）、13(1)、17-23、（1997）



北海道の畜産環境をめぐる情勢

1 家畜排せつ物の発生・管理

北海道が公表している「北海道の畜産環境をめぐる情勢」によると、北海道における令和5年の家畜排せつ物の発生量は、約2,083万トンと推計され、全体の9割が牛の排せつ量。

2 家畜排せつ物の処理・利用

同様に、家畜排せつ物は、堆肥として61%、スラリーとして23%が利用されており、ほとんどが農地に還元されています。

3 家畜排せつ物の未利用資源について

右表「家畜飼養及び排せつ量」と「家畜排せつ物の利用状況」から利用率を仮算出すると、利用率は96.0%となり、未利用の資源量はほとんどないことになります。

ただし、一方で、令和3年3月に北海道が策定した、「北海道家畜排せつ物利用促進計画」の「2 家畜排せつ物における課題」には、「農家によっては飼料畑面積に比べて家畜排せつ物の発生量が多いため必要量以上の堆肥やスラリーがほ場に還元されている例も見られます。」との記載もあることから、自己経営内利用のうち一定程度量は有機質肥料資源としての活用が可能と考えられます。

資料：「北海道の畜産環境をめぐる情勢」令和6年5月北海道農政部生産振興局畜産振興課（CC-BY4.0 Hokkaido）
「北海道家畜排せつ物利用促進計画」令和3年3月北海道（CC-BY4.0 Hokkaido）

家畜飼養及び排せつ量

畜種	戸数	頭羽数	排せつ量	割合
		(千頭羽)	(千トン)	(%)
乳用牛	5,380	843	12,996	62.4
肉用牛	2,180	566	5,218	25.0
豚	191	760	1,744	8.4
採卵鶏	52	6,311	284	1.4
ブロイラー	8	5,364	255	1.2
馬	1,622	33	336	1.6
計			20,833	100.0

資料：「北海道の畜産環境をめぐる情勢」（令和6年5月）

注：農林水産省「畜産統計」（R5.2.1現在）等から推計

家畜排せつ物の利用状況

（単位：千トン）

区分	堆肥	液肥		放牧	その他	計
		尿	スラリー			
利用量	12,192	1,614	4,538	943	716	20,003
割合	60.9%	8.1%	22.7%	4.7%	3.6%	100.0%

〔利用の内訳〕

（単位：千トン）

自己経営内 利用	自己経営外利用				その他 (浄化等)
	耕種農家	堆肥センター等	畜産農家		
13,807	5,291	3,665	1,141	485	905
69.0%	26.5%	18.3%	5.7%	2.5%	4.5%

資料：「北海道の畜産環境をめぐる情勢」（令和6年5月）

「市町村家畜排せつ物利用促進計画(164市町村)」

注：市町村により計画策定年は異なっている。



家畜排せつ物（ふん尿）年間発生量の推定について



推定に使用したデータ

- ・「家畜の排泄物量推定プログラム」築城幹典・原田靖生、システム農学（J、JASS）、13(1)、17-23、（1997）
- ・「2020年農林業センサス」家畜飼養（出荷）頭羽数

ブロイラーは集計事項に「飼養羽数」がないことから、年間出荷羽数を2019年及び2021年の畜産統計調査における年間回転数の平均値を用いて「飼養羽数」に換算して使用。→39,836,997羽（北海道年間出荷羽数）÷7.7回転＝5,173,636羽（北海道飼養羽数）※市町村別についても同様の方法で換算。

推定方法

- ・家畜排せつ物年間発生量は、飼養頭（羽）数に家畜排泄物量推定のための原単位（ふん尿量）を乗じた結果を年間換算して推定した。

家畜飼養頭（羽）数 × 家畜排泄物量推定のための原単位（ふん尿量）×365日（千 t 換算）

家畜排せつ物年間発生量（北海道）

区 分			飼養頭 （羽） 数 ①	使 用 原単位 区 分	ふん尿量 （生重kg/頭（羽） /日）			ふん尿量 （年間発生量：千 t）			備 考	
					ふん ②	尿 ③	合計 ④	ふん ⑤ = ①× ②× 365日（千 t 換算）	尿 ⑥ = ①× ③× 365日（千 t 換算）	合計 ⑦ = ⑤ + ⑥		
牛	乳用牛	2 歳以上	810,699					10,096	3,148	13,244		
			476,432	搾乳牛	45.5	13.4	58.9	7,912	2,330	10,243		
		2 歳未満	334,267	育成牛	17.9	6.7	24.6	2,184	817	3,001		
	肉用牛		515,774	乳用種	18.0	7.2	25.2	3,389	1,355	4,744		
			584,721					470	869	1,339		
豚	子取り用めす豚		49,909	繁殖豚	3.3	7.0	10.3	60	128	188		
	肥育中の豚		534,812	肉豚	2.1	3.8	5.9	410	742	1,152		
採卵鶏			7,145,752	成鶏	0.136		0.136				355	⑦ = ①× ④× 365日（千 t 換算）
ブロイラー			5,173,636	ブロイラー	0.13		0.13				245	⑦ = ①× ④× 365日（千 t 換算）
合 計											19,928	

資料：「家畜の排泄物量推定プログラム」築城幹典・原田靖生、システム農学（J、JASS）、13(1)、17-23、（1997）、「2020年農林業センサス」

注：1 ブロイラー飼養羽数は、年間出荷羽数を2019年及び2021年の畜産統計調査における年間回転数の平均値を使用して換算。

39,836,997羽（年間出荷羽数）÷7.7回転＝5,173,636羽（飼養羽数）

2 家畜排せつ物年間発生量(北海道)は、北海道の各畜種飼養頭(羽)数に家畜排泄物量推定のための原単位(ふん尿量)を乗じた結果を年間換算して推定した。

3 統計数値については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。



家畜排せつ物（ふん尿）年間発生量（5畜種計）

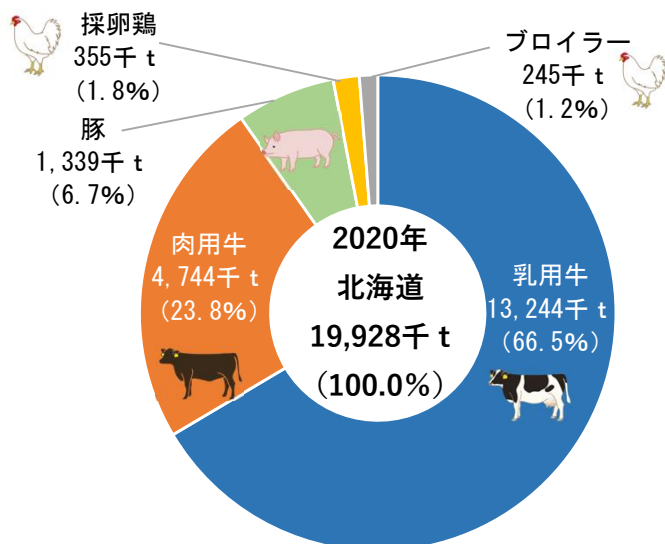


家畜排せつ物年間発生量

区 分	飼養頭羽数	ふん尿量 (年間発生量：千 t)			
		ふん	尿	合 計	
				実 数	構成比(%)
乳 用 牛	810,699	10,096	3,148	13,244	66.5
肉 用 牛	515,774	3,389	1,355	4,744	23.8
豚	584,721	470	869	1,339	6.7
採 卵 鶏	7,145,752			355	1.8
ブ ロ イ ラ ー	5,173,636			245	1.2
合 計				19,928	100.0

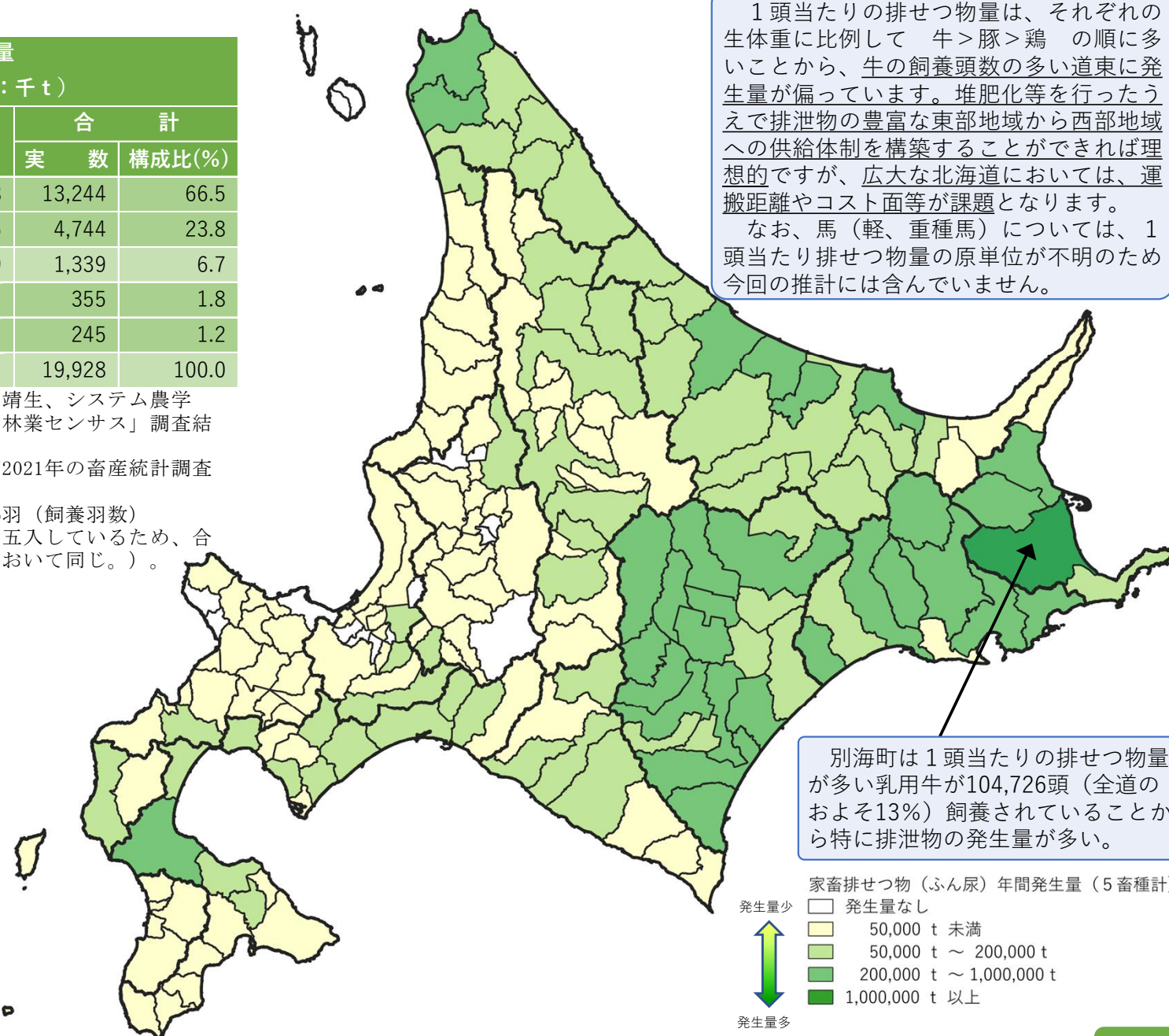
- 注：1 「家畜の排泄物量推定プログラム」築城幹典・原田靖生、システム農学（J、JASS）、13(1)、17-23、(1997) 及び「2020年農林業センサス」調査結果から推計。
2 ブロイラー飼養羽数は、年間出荷羽数を2019年及び2021年の畜産統計調査における年間回転数の平均値を使用して換算。
39,836,997羽（年間出荷羽数÷7.7回転=5,173,636羽（飼養羽数）
3 統計数値及び割合については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある（以下の図において同じ。）。

家畜排せつ物年間発生量の畜種別構成比



1頭当たりの排せつ物量は、それぞれの生体重に比例して 牛>豚>鶏 の順に多いことから、牛の飼養頭数の多い道東に発生量が偏っています。堆肥化等を行ったうえで排泄物の豊富な東部地域から西部地域への供給体制を構築することができれば理想的ですが、広大な北海道においては、運搬距離やコスト面等が課題となります。

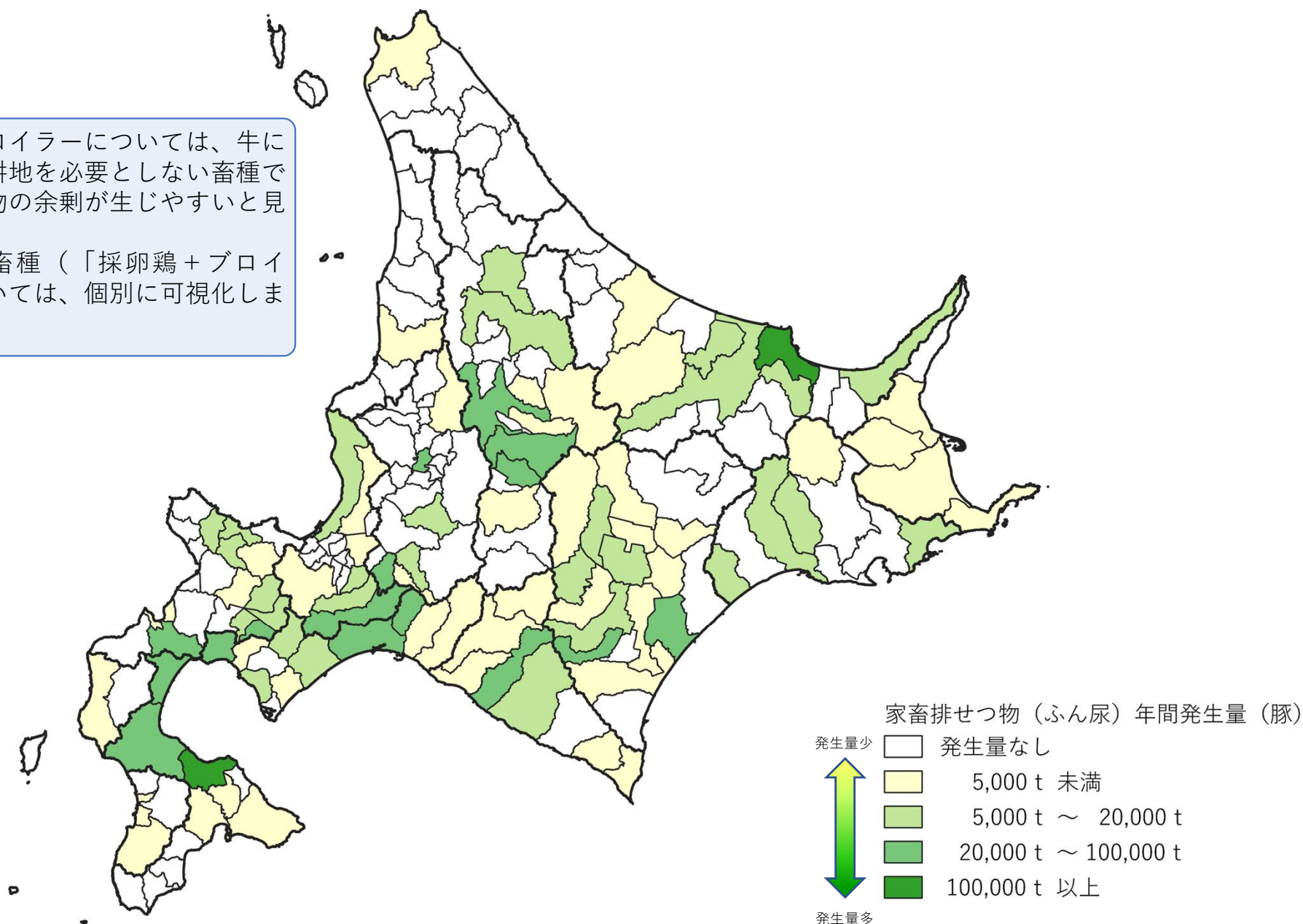
なお、馬（軽、重種馬）については、1頭当たり排せつ物量の原単位が不明のため今回の推計には含んでいません。



家畜排せつ物（ふん尿）年間発生量（豚）

豚、採卵鶏及びブロイラーについては、牛に比べて一般的に経営耕地を必要としない畜種であることから、排泄物の余剰が生じやすいと見込まれます。

このため、この3畜種（「採卵鶏＋ブロイラー」含む。）については、個別に可視化しました。



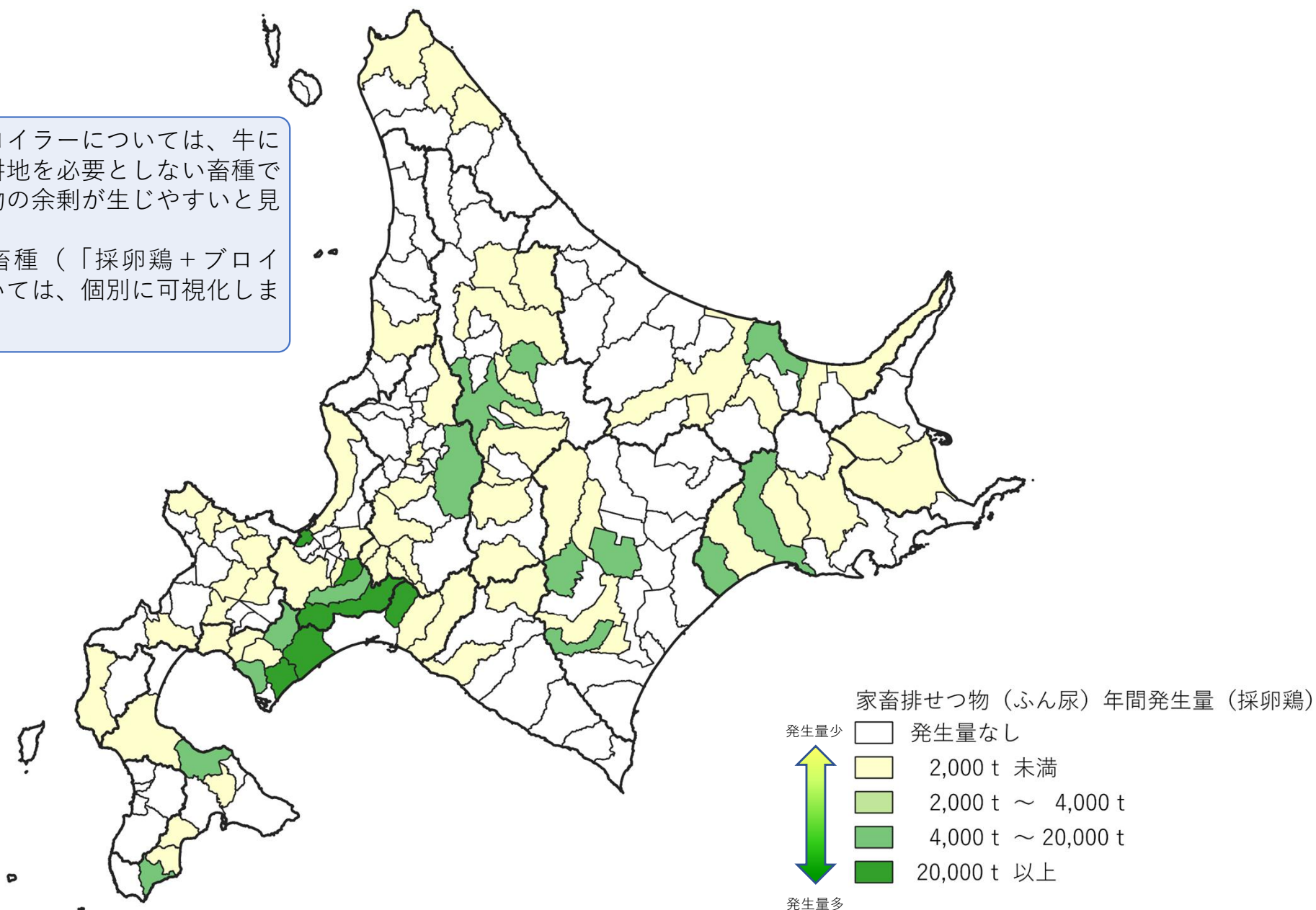
資料：「家畜の排泄物量推定プログラム」築城幹典・原田靖生、システム農学（J.JASS）、13(1)、17-23、（1997）、「2020年農林業センサス」

注：「2020年農林業センサス」は属人統計（家畜を飼養している人（経営体）が所在する場所別に集計される統計をいう。）であるため、各市町村における家畜飼養実態が十分に反映されない場合があります（家畜飼養頭羽数を基に算出している家畜排せつ物年間発生量についても同様。）。

家畜排せつ物（ふん尿）年間発生量（採卵鶏）

豚、採卵鶏及びブロイラーについては、牛に比べて一般的に経営耕地を必要としない畜種であることから、排泄物の余剰が生じやすいと見込まれます。

このため、この3畜種（「採卵鶏＋ブロイラー」含む。）については、個別に可視化しました。



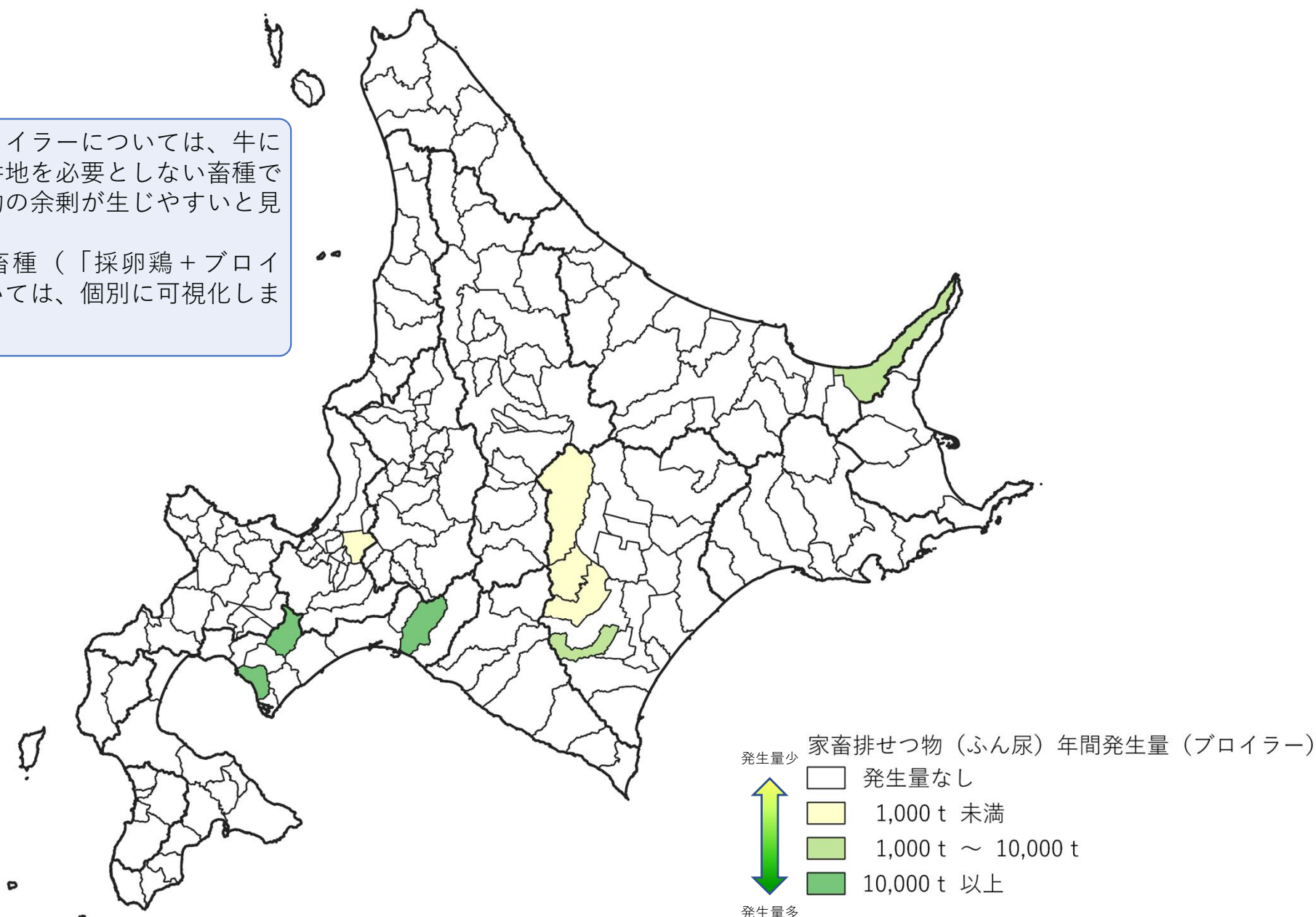
資料：「家畜の排泄物量推定プログラム」築城幹典・原田靖生、システム農学（J.JASS）、13(1)、17-23、（1997）、「2020年農林業センサス」

注：「2020年農林業センサス」は属人統計（家畜を飼養している人（経営体）が所在する場所別に集計される統計をいう。）であるため、各市町村における家畜飼養実態が十分に反映されない場合があります（家畜飼養頭羽数を基に算出している家畜排せつ物年間発生量についても同様。）。

家畜排せつ物（ふん尿）年間発生量（ブロイラー）

豚、採卵鶏及びブロイラーについては、牛に比べて一般的に経営耕地を必要としない畜種であることから、排泄物の余剰が生じやすいと見込まれます。

このため、この3畜種（「採卵鶏＋ブロイラー」含む。）については、個別に可視化しました。



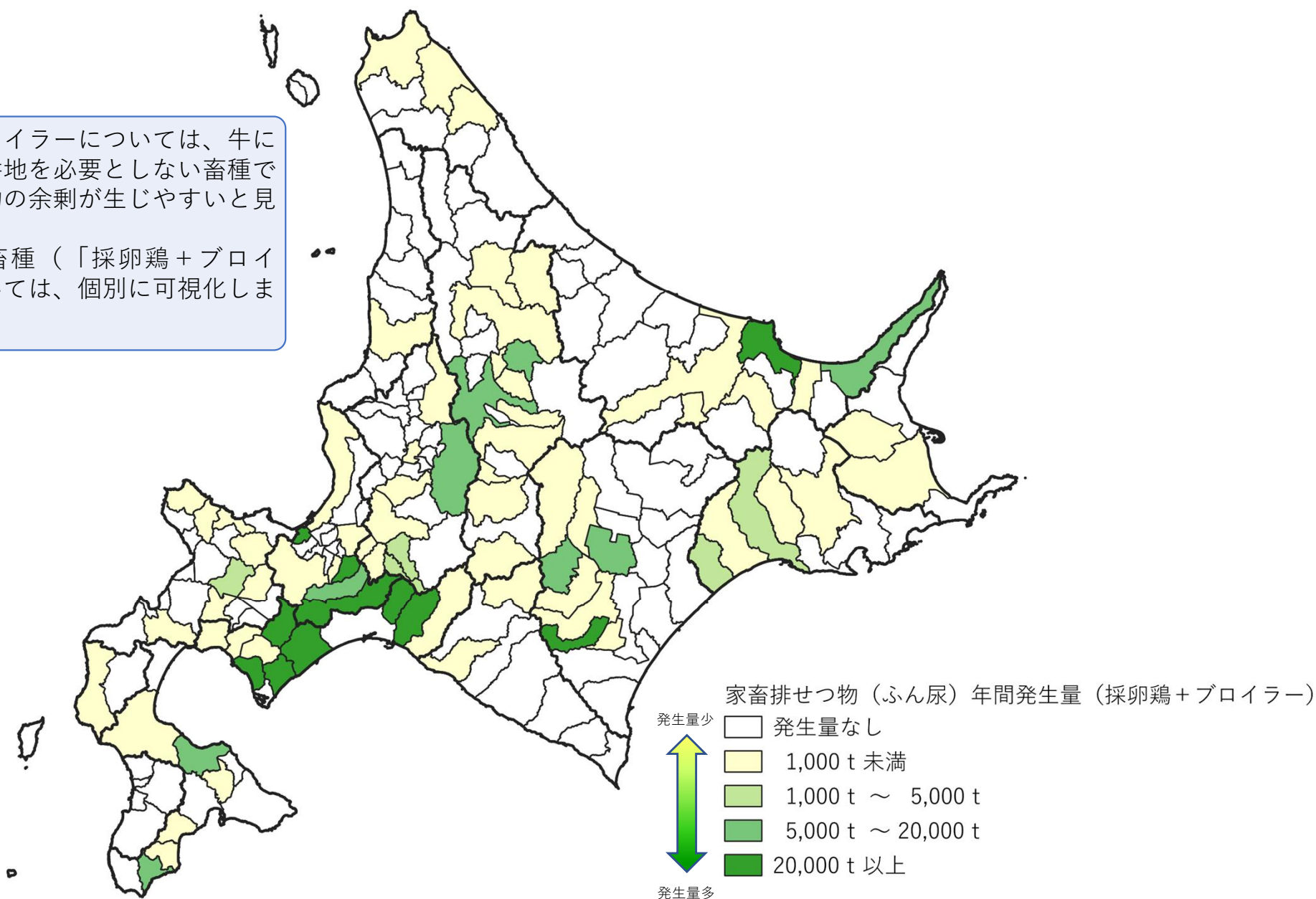
資料：「家畜の排泄物量推定プログラム」築城幹典・原田靖生、システム農学（J.JASS）、13(1)、17-23、（1997）、「2020年農林業センサス」

注：「2020年農林業センサス」は属人統計（家畜を飼養している人（経営体）が所在する場所別に集計される統計をいう。）であるため、各市町村における家畜飼養実態が十分に反映されない場合があります（家畜飼養頭羽数を基に算出している家畜排せつ物年間発生量についても同様。）。

家畜排せつ物（ふん尿）年間発生量（採卵鶏＋ブロイラー）

豚、採卵鶏及びブロイラーについては、牛に比べて一般的に経営耕地を必要としない畜種であることから、排泄物の余剰が生じやすいと見込まれます。

このため、この3畜種（「採卵鶏＋ブロイラー」含む。）については、個別に可視化しました。



資料：「家畜の排泄物量推定プログラム」築城幹典・原田靖生、システム農学（J.JASS）、13(1)、17-23、（1997）、「2020年農林業センサス」

注：「2020年農林業センサス」は属人統計（家畜を飼養している人（経営体）が所在する場所別に集計される統計をいう。）であるため、各市町村における家畜飼養実態が十分に反映されない場合があります（家畜飼養頭羽数を基に算出している家畜排せつ物年間発生量についても同様。）。



家畜排せつ物由来窒素年間発生量の推定について



推定に使用したデータ

・「家畜の排泄物量推定プログラム」築城幹典・原田靖生、システム農学（J、JASS）、13(1)、17-23、（1997）

・「2020年農林業センサス」家畜飼養（出荷）頭羽数

ブロイラーは集計事項に「飼養羽数」がないことから、年間出荷羽数を2019年及び2021年の畜産統計調査における年間回転数の平均値を用いて「飼養羽数」に換算して使用。→39,836,997羽（北海道年間出荷羽数）÷7.7回転＝5,173,636羽（北海道飼養羽数）※市町村別についても同様の方法で換算。

推定方法

・家畜排せつ物由来窒素年間発生量は、飼養頭（羽）数に家畜排泄物量推定のための原単位（窒素量）を乗じた結果を年間換算して推定した。

家畜飼養頭（羽）数 × 家畜排泄物量推定のための原単位（窒素量）× 365日（百 t 換算）

家畜排せつ物由来窒素年間発生量（北海道）

区 分			飼養頭 （羽） 数 ①	使 用 原単位 区 分	窒素量 （gN/頭（羽） /日）			窒素量 （年間排出量：百 t ）			備考	
					ふん ②	尿 ③	合計 ④	ふん ⑤＝①×②×365日（百 t 換算）	尿 ⑥＝①×③×365日（百 t 換算）	合計 ⑦＝⑤＋⑥		
牛	乳用牛	2 歳以上	810,699	搾乳牛	152.8	152.7	305.5	370	355	725		
		2 歳未満	476,432	育成牛	85.3	73.3	158.6	266	266	531		
		肉用牛	334,267	乳用種	64.7	76.4	141.1	104	89	194		
			515,774					122	144	266		
豚			584,721					18	58	76		
	子取り用めす豚		49,909	繁殖豚	11.0	40.0	51.0	2	7	9		
	肥育中の豚		534,812	肉豚	8.3	25.9	34.2	16	51	67		
採卵鶏			7,145,752	成鶏	3.28		3.28				86	⑦＝①×④×365日（百 t 換算）
ブロイラー			5,173,636	ブロイラー	2.62		2.62				49	⑦＝①×④×365日（百 t 換算）
合 計											1,201	

資料：「家畜の排泄物量推定プログラム」築城幹典・原田靖生、システム農学（J、JASS）、13(1)、17-23、（1997）、「2020年農林業センサス」

注：1 ブロイラー飼養羽数は、年間出荷羽数を2019年及び2021年の畜産統計調査における年間回転数の平均値を使用して換算。

39,836,997羽（年間出荷羽数）÷7.7回転＝5,173,636羽（飼養羽数）

2 家畜排せつ物由来窒素年間発生量（北海道）は、北海道の各畜種飼養頭（羽）数に家畜排泄物量推定のための原単位（窒素量）を乗じた結果を年間換算して推定した。このため、市町村試算値の積算値と一致しない場合がある。

3 統計数値については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。



家畜排せつ物由来窒素年間発生量（5畜種計）



家畜排せつ物由来窒素年間発生量

区 分	飼養頭羽数	窒素量 (年間発生量：百 t)			
		ふん	尿	合 計	
				実 数	構成比(%)
乳 用 牛	810,699	370	355	725	60.4
肉 用 牛	515,774	122	144	266	22.1
豚	584,721	18	58	76	6.3
採 卵 鶏	7,145,752			86	7.2
ブ ロ イ ラ ー	5,173,636			49	4.1
合 計				1,201	100.0

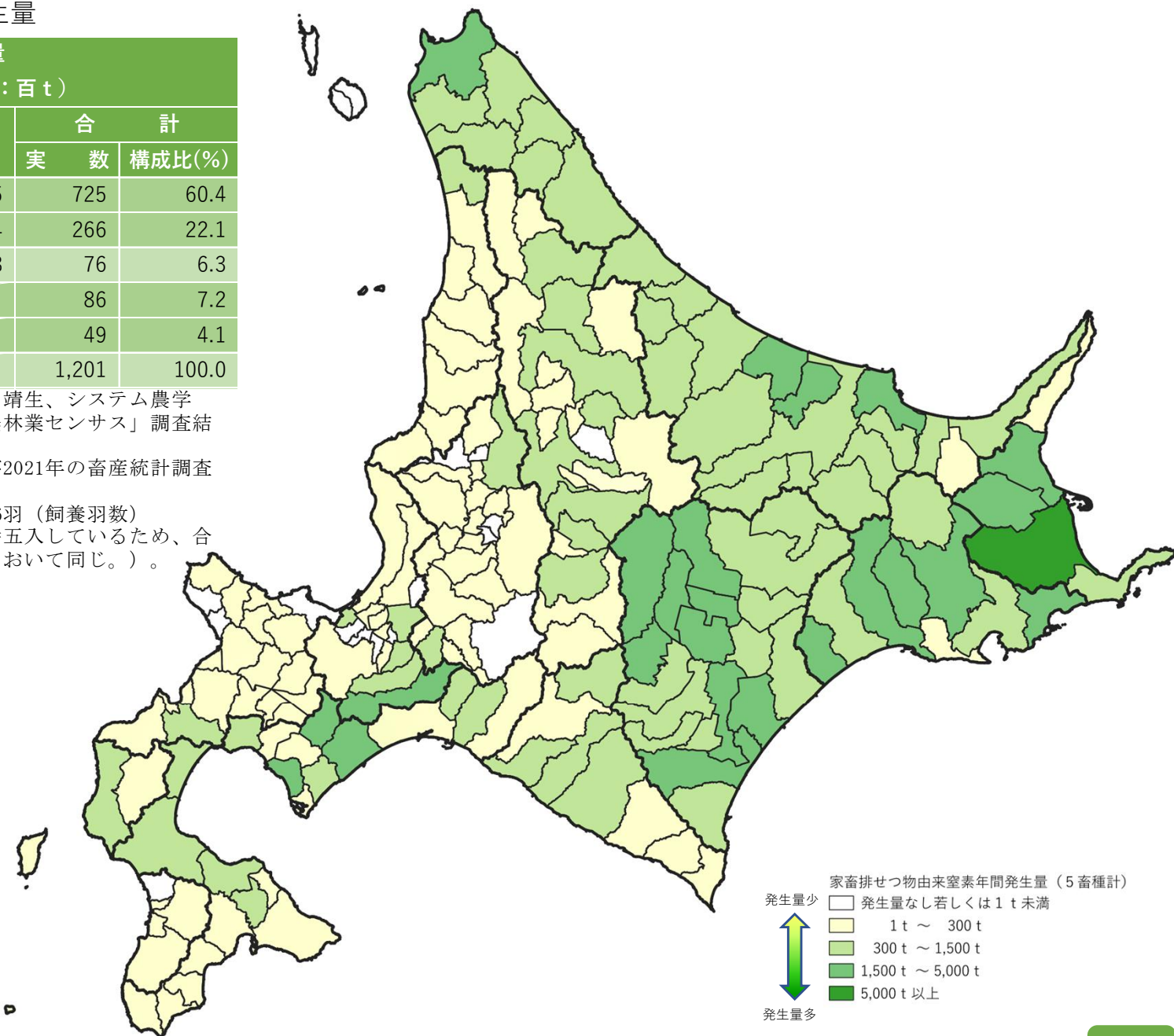
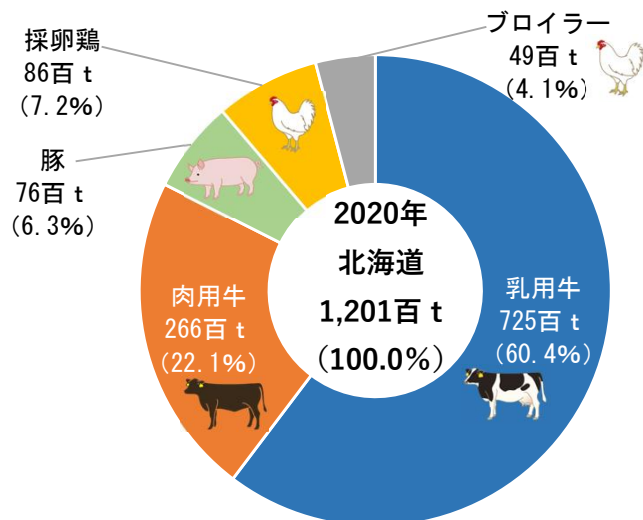
注：1 「家畜の排泄物量推定プログラム」築城幹典・原田靖生、システム農学（J、JASS）、13(1)、17-23、（1997）及び「2020年農林業センサス」調査結果から推定。

2 ブロイラー飼養羽数は、年間出荷羽数を2019年及び2021年の畜産統計調査における年間回転数の平均値を使用して換算。

39,836,997羽（年間出荷羽数÷7.7回転＝5,173,636羽（飼養羽数）

3 統計数値及び割合については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある（以下の図において同じ。）。

家畜排せつ物由来窒素年間発生量の畜種別構成比





家畜排せつ物由来リン年間発生量の推定について



推定に使用したデータ

・「家畜の排泄物量推定プログラム」築城幹典・原田靖生、システム農学（J、JASS）、13(1)、17-23、（1997）

・「2020年農林業センサス」家畜飼養（出荷）頭羽数

ブロイラーは集計事項に「飼養羽数」がないことから、年間出荷羽数を2019年及び2021年の畜産統計調査における年間回転数の平均値を用いて「飼養羽数」に換算して使用。→ 39,836,997羽（北海道年間出荷羽数）÷ 7.7回転 = 5,173,636羽（北海道飼養羽数）※市町村別についても同様の方法で換算。

推定方法

・家畜排せつ物由来リン年間発生量は、飼養頭（羽）数に家畜排泄物量推定のための原単位（リン量）を乗じた結果を年間換算して推定した。

家畜飼養頭（羽）数 × 家畜排泄物量推定のための原単位（リン量）× 365日（百 t 換算）

家畜排せつ物由来リン年間発生量（北海道）

区 分			飼養頭 （羽） 数 ①	使 用 原単位 区 分	リン量 （gP/頭（羽） /日）			リン量 （年間発生量：百 t ）			備考	
					ふん ②	尿 ③	合計 ④	ふん ⑤＝①×②×365日（百 t 換算）	尿 ⑥＝①×③×365日（百 t 換算）	合計 ⑦＝⑤＋⑥		
牛	乳用牛	2 歳以上	810,699					93	4	97		
		2 歳未満	476,432	搾乳牛	42.9	1.3	44.2	75	2	77		
			334,267	育成牛	14.7	1.4	16.1	18	2	20		
	肉用牛		515,774	乳用種	13.5	0.7	14.2	25	1	27		
			584,721					14	5	20		
豚	子取り用めす豚		49,909	繁殖豚	9.9	5.7	15.6	2	1	3		
	肥育中の豚		534,812	肉豚	6.5	2.2	8.7	13	4	17		
採卵鶏			7,145,752	成鶏	0.58		0.58				15	⑦＝①×④×365日（百 t 換算）
ブロイラー			5,173,636	ブロイラー	0.29		0.29				5	⑦＝①×④×365日（百 t 換算）
合 計											164	

資料：「家畜の排泄物量推定プログラム」築城幹典・原田靖生、システム農学（J、JASS）、13(1)、17-23、（1997）、「2020年農林業センサス」

注：1 ブロイラー飼養羽数は、年間出荷羽数を2019年及び2021年の畜産統計調査における年間回転数の平均値を使用して換算。

39,836,997羽（年間出荷羽数）÷ 7.7回転 = 5,173,636羽（飼養羽数）

2 家畜排泄物量由来リン年間発生量（北海道）は、北海道の各畜種飼養頭（羽）数に家畜排泄物量推定のための原単位（リン量）を乗じた結果を年間換算して推定した。このため、市町村試算値の積算値と一致しない場合がある。

3 統計数値については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。



家畜排せつ物由来リン年間発生量（5畜種計）

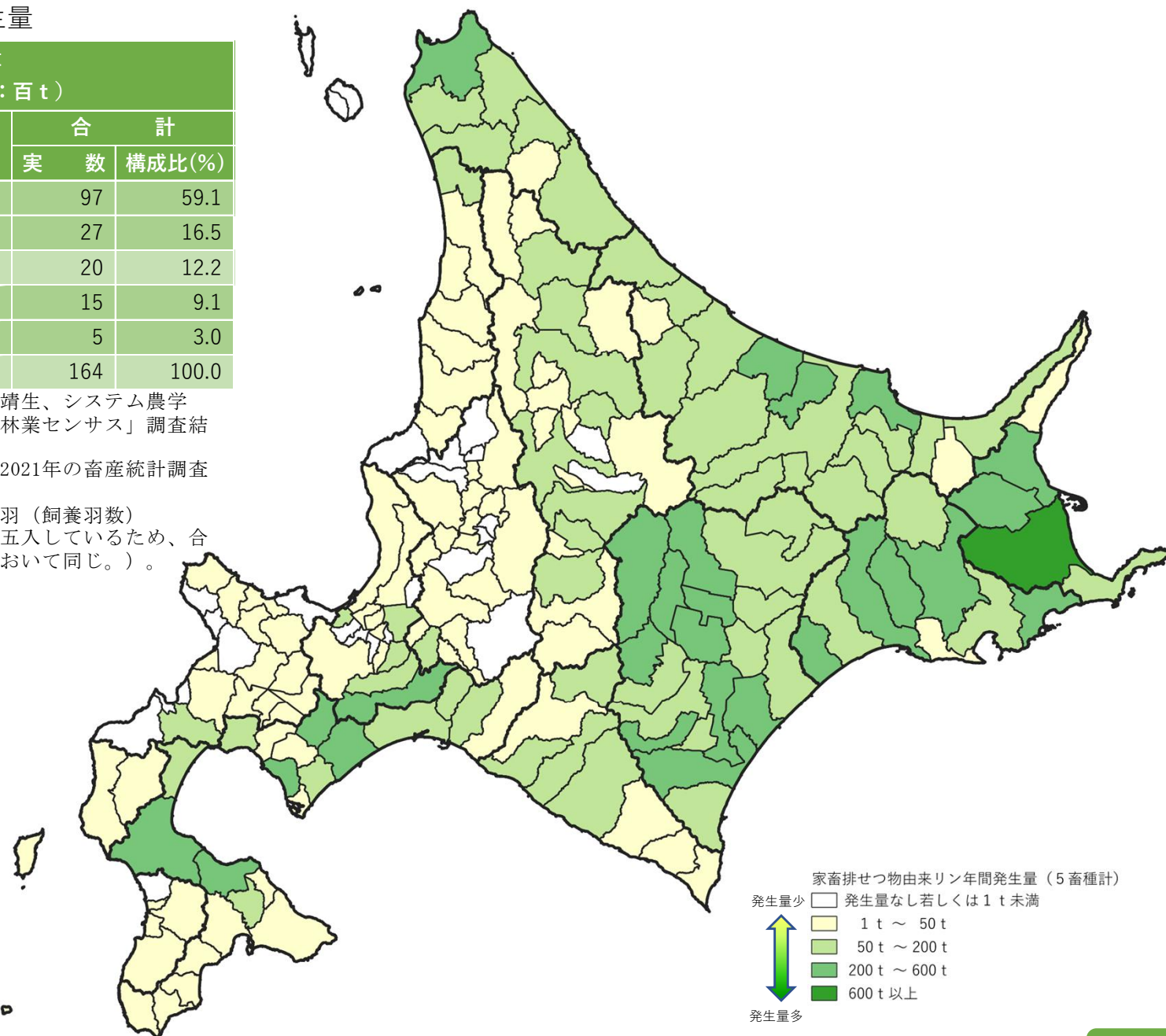
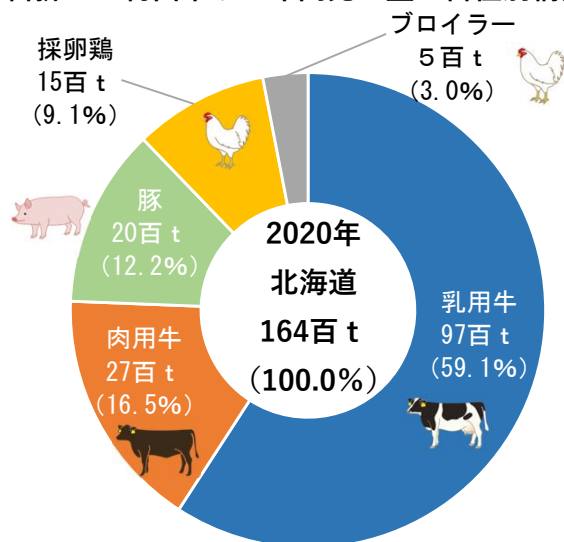


家畜排せつ物由来リン年間発生量

区 分	飼養頭羽数	リン量 (年間発生量：百 t)			
		ふん	尿	合 計	
				実 数	構成比(%)
乳 用 牛	810,699	93	4	97	59.1
肉 用 牛	515,774	25	1	27	16.5
豚	584,721	14	5	20	12.2
採 卵 鶏	7,145,752			15	9.1
ブ ロ イ ラ ー	5,173,636			5	3.0
合 計				164	100.0

- 注：1 「家畜の排泄物量推定プログラム」築城幹典・原田靖生、システム農学（J、JASS）、13(1)、17-23、（1997）及び「2020年農林業センサス」調査結果から推定。
- 2 ブロイラー飼養羽数は、年間出荷羽数を2019年及び2021年の畜産統計調査における年間回転数の平均値を使用して換算。
39,836,997羽（年間出荷羽数÷7.7回転＝5,173,636羽（飼養羽数）
- 3 統計数値及び割合については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある（以下の図において同じ。）。

家畜排せつ物由来リン年間発生量の畜種別構成比



各種情報のご案内

〈ホームページ掲載案内〉

本資料は、北海道農政事務所ホームページ中の「加工分析資料」でご覧いただけます。

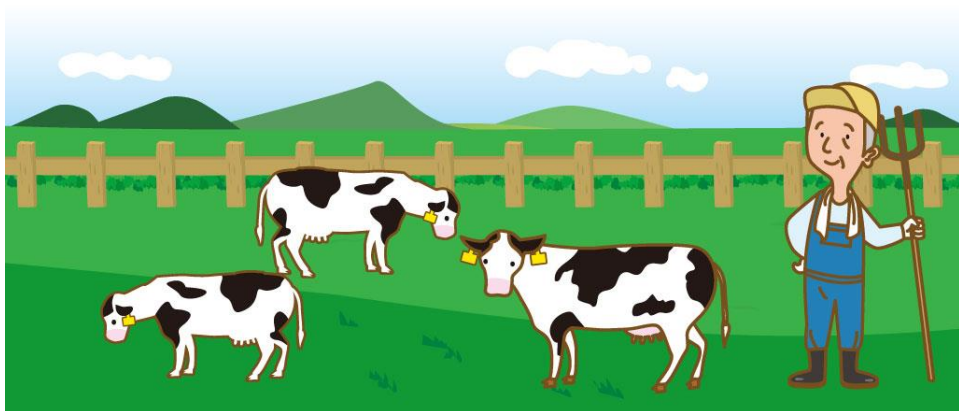
https://www.maff.go.jp/hokkaido/toukei/kikaku/gurafu_gaiyou/index.html

農林業センサスのデータは、北海道農政事務所ホームページ中の「**農林業センサスデータベース**」でご覧いただけます。

<https://www.maff.go.jp/hokkaido/toukei/kikaku/nousen/index.html>

農林業センサスの集落単位のデータと各種情報とを組み合わせ分析できる「**地域の農業を見て・知って・活かすDB～農林業センサスを中心とした総合データベース～**」を農林水産省ホームページで紹介しています。

https://www.maff.go.jp/j/tokei/census/shuraku_data/index.html



〈お問合せ先〉

農林水産省 北海道農政事務所
統計部統計企画課

電 話：011－330－8818（直通）